

# 新県立大学基本方針

平成 25 年 6 月 24 日  
長 野 県

長野県は、グローバルな視野を持ちビジネスや地域社会にイノベーションを創出していく自立した人材を育成し、長野県の発展に貢献するため、新県立大学基本構想に基づいて新しい県立大学を設置します。

併せて、長野県内の高等教育全体の振興を図るとともに、高校までの長野県教育の改革を進めていきます。

## 新県立大学設置の目的

### 1 県内経済発展と地域社会の未来を担う自立した人材を育成します

時代の大きな転換期にあって、私たちの社会のシステムは大きな変革を迫られています。このような時代において、長野県が持続的に発展していくためには、グローバルな視野を持ちビジネスや地域社会にイノベーションを起こして新しい価値を創造していく自立した人材が必要です。

新しい県立大学は、自ら課題を見つけ、新しい価値を生み出し、県内の経済発展と地域を牽引していく自立した人材を地域に輩出していきます。

### 2 県政推進のための「知の拠点」となります

大学には様々な課題の解決に資する人材や情報、技術が集積し、地域と連携した教育や研究を進めることにより、地域産業の振興や住みやすい地域づくりに貢献することができます。

新しい県立大学は、長野県のシンクタンクとして県政課題・地域課題に積極的に取り組み、成果を地域に還元することにより、地域の発展に寄与していきます。

### 3 県内高校生の進学の実選択肢を拡大します

長野県の大学収容力<sup>1</sup>は 15.6%<sup>2</sup>で全国最低水準にあり、大学進学者の8割以上が県外大学に進学しています。県内の高校生や企業、県民には県立大学の設置に対する高い期待<sup>3</sup>があります。新しい県立大学は、県内高校生に新たな進学の実選択肢を提供します。

<sup>1</sup> 県内大学入学者数／県内 18 歳人口

<sup>2</sup> 文部科学省 学校基本調査(平成 24 年)

<sup>3</sup> 平成 22 年に県が実施した「長野県の大学教育に関するアンケート調査」では、高校生及び企業の約6割、県民の約7割が新しい県立大学の設置を希望、あるいは設置が必要と回答。

### 1 グローバル社会に対応できる人材を育成します

グローバル化の進展により、産業・ビジネス展開はもちろん、地域における様々な課題の解決にも、グローバルな視点で考え、世界との繋がりの中で行動することが欠かせません。

自身が立脚する文化や諸外国の文化を理解・尊重しながら、実践的英語力を含むコミュニケーション力を持ち、あるべき社会の構築に向けて主体的に行動できる力を育成します。

#### 教育方法

- ・全ての学生に海外プログラムの履修を義務付け
- ・海外大学との提携による留学生の積極的受入れ
- ・教養教育の充実（幅広い学問領域を学び多角的に考え行動するための「方法としての教養」）
- ・入学者選抜にTOEFL、TOEIC等を活用
- ・国内外の大学と連携した地域課題解決プロジェクトの取組

### 2 地域でイノベーションを創出する人材を育成します

時代の転換期にあって、旧来の経済システムや生活を支える仕組みからの変革が求められています。産業や社会にイノベーションを創出して、地域を牽引していく人材が必要です。

課題を発見する力や、その解決に向かうチャレンジ精神を持ち、幅広い知識の中から新たな関係を構築し、多様な人とのネットワークを通じて新しい価値を生み出し、課題を解決していく力や企業家精神を育成します。

#### 教育方法

- ・教室での学問と現場での実践を結びつけた学びの実施
- ・地域・企業・自治体と連携し自ら課題を発見し解決する課題探求型授業の実施
- ・第一線で活躍する実務家教員の活用
- ・森林や農産物等、長野県の豊かな地域資源を活用した教育
- ・サテライト・キャンパス、サテライト・ラボ（仮称）等を拠点とした地域課題解決や地域文化の学習

### 3 学生が徹底的に勉学に励む仕組みをつくります

日本の大学生の学習時間の不足や自ら学ぶ姿勢の希薄さが指摘されています。

学生が将来に向けて、幅広い知識や豊かな専門性に裏付けされた確かな実力を獲得することができるよう、学生の意欲に応える厳格な評価システムと、目標達成をささえるきめ細かな指導体制を構築します。

#### 教育方法

- ・原則として1年次全員を対象とした学寮での共同生活
- ・少人数教育や学生支援の充実
- ・進級・卒業に当たり履修成果を厳格に評価

### 4 大学改革を先駆的に実践します

今日、社会の要請や学生の要求に応じていくため、多くの課題が大学教育に課せられています。新県立大学は、現在の大学教育が抱える課題に果敢に挑戦し、先駆的に取り組んでいきます。

#### 具体例

- ・入学者選抜方法の改革（TOEFL、TOEIC等の活用等、多様な選抜方法を採用）
- ・大学ガバナンスの確立

## 各学科の目的と特色

### ○ 総合マネジメント学科

～自ら起業し、または組織にあってイノベーションを創出するビジネス・リーダーや地域社会のリーダーを育成～

マネジメント力を発揮し、地域の資源を生かして事業を展開できるビジネス・リーダーや、地域課題を発見し、解決するための政策立案や公共サービスの担い手となる地域社会のリーダーを育成します。

#### 育成する特長的な力

- ・異文化を理解する力
- ・ビジネスに使える英語力を含むコミュニケーション力
- ・組織として成果を上げるマネジメント力
- ・多様性の中から新たな関係を構築する力

### ○ こども学科

～高度な専門性を身につけ、地域の子育てをマネジメントできる人材を育成～

幼児期の自発性の涵養や発達障害への対応など高度な専門性を身に付け、保育や幼児教育を行うことのできる人材、また、地域の子育てリーダーを育成します。

#### 育成する特長的な力

- ・発達障害への対応など高度な専門性
- ・グローバル社会に必要な教育の理解
- ・地域の子育て関係者をネットワークする力

### ○ 健康文化学科

～長野県の健康長寿を築いてきた「健康文化」の担い手を育成～

「健康長寿世界一」を継承・発展させていくため、健康な地域づくりを総合的に推進することのできる人材、地域の食育を進める中核的人材、食や健康の観点からビジネスを展開することができる人材を育成します。

#### 育成する特長的な力

- ・健康な社会づくりを総合的に進める力
- ・地域の食育を推進する力
- ・「健康文化」の発信力
- ・食・健康をテーマとしたビジネスを展開する力

## 学長のリーダーシップが発揮できる運営体制

社会の変化に対応し、社会の要請や学生のニーズに応える大学であり続けるため、機動的な運営体制を確立します。

- ・運営主体は公立大学法人
- ・教授会の役割と責任を明確化し、迅速な意思決定プロセスを確立
- ・教員の評価制度や任期制等、教育研究の活性化や教育の質向上に資する制度の導入を検討

## 学部・学科

学部・学科（コース）	定員	概要
<b>総合マネジメント学部</b>		
<b>総合マネジメント学科</b>	160人	
グローバルビジネスコース		幅広い教養とグローバルな視野を持ち、マネジメント力を発揮し、地域の人と資源を生かして起業または事業を展開できるグローバル社会のビジネス・リーダーを育成
公共経営コース		地域づくりをマネジメントし、地域課題を発見・解決するための政策立案や公共的サービスの担い手となりうる地域社会のリーダーを育成
<b>健康発達学部</b>		
<b>こども学科</b>	40人	幼児期の自発性の涵養、発達障害への対応など高度な専門性を身につけ、地域の子育てをマネジメントできる保育・幼児教育のリーダーを育成
<b>健康文化学科</b>	40人	
健康社会コース		「健康文化」を構成する食、生活様式、人間関係等についての総合的な知見に基づき、「健康文化」を継承・発展して健康な社会づくりをリードする人材を育成
食健康コース		食や健康に関する専門的知識を持ち、「地域の食育」のリーダー、グローバルな視野で食ビジネスの展開に健康の視点から貢献できる人材を育成 (管理栄養士受験資格、栄養教諭免許の取得が可能)
<b>合計</b>	<b>240人</b>	

※名称は全て仮称 定員については概数

## 各種センター

センターの名称	概要
<b>言語教育センター</b>	学生への言語教育・留学支援、社会人への語学学習、留学生・外国籍県民への日本語・日本文化教育の支援
<b>キャリア開発支援センター</b>	学生一人ひとりの将来ビジョンに基づく学習支援・就職支援
<b>生涯学習センター</b>	リカレント教育、企業・団体・起業家等の研修、長期講座の開催など、社会人一人ひとりのキャリアに応じた学習機会の提供
<b>グローバルビジネス創出センター</b>	企業・自治体との共同プロジェクト、グローバルビジネスの創出等の実施

※名称は全て仮称

## 場所・施設

現在の長野県短期大学所在地を基本に設置。一部の施設については、他の場所での設置も検討。

## 開学時期

平成29年4月開学を目標とするが、施設整備計画等を策定する中で決定。